

## MEC必修講座

### 対策しやすいガイドライン別学習で必修脳を身につける

必修は、合格基準80%と唯一の絶対基準が設けられた分野です。そのため、問題を解く上での知識に加え、多くの受験生と同じ解答ができることも重要な要素です。これは“必修脳”とも呼ばれ、解答する上での思考のことです。本講座では、『医師国家試験出題基準』(以下国試ガイドライン)の項目ごとにセクションを設け、各項目の知識を学習しながら、この“必修脳”を身につけていきます。すべての国試ガイドラインを完全網羅しており、抜けのない必修対策が可能となっています。

### より多くの必修問題に触れる

テキストには過去15年分をすべて掲載しており、解説を「MECサーチ」で確認することができます。この約半数となる問題を重要問題と位置づけ「★」をつけています。講義では、この★問題を取り扱い、より詳細な問題解説を中心に進めています。まずは★問題の内容をしっかりと理解し、その後の学習状況に応じて無印問題にも触れることで、完全な必修対策が可能となります。20単位とコンパクトにまとまり、時間のない方にも受講しやすくなっています。

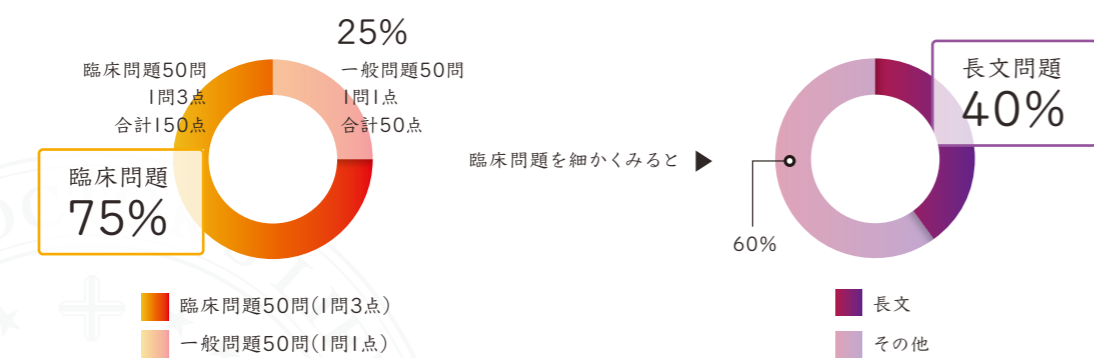
### 学習効果の高い順番で講義

まずは医師として患者に接する前に知っておくべき大前提の内容として、国試ガイドライン必修項目1～5「医師のプロフェッショナルリズム、社会と医療・・・人体の構造と機能」を学び、続けて患者との関りの入り口として、6「医療面接」を続けて学びます。次に、出題率の高いものとして、11「救急初期診療」、7「主要症候」、12「主要疾患・症候群」を対策した後、前後で取り扱う国試ガイドラインとの関連性を考慮し、8・14「一般的な身体診察と基本的手技」、9・13「検査・治療の基本」、10「臨床判断の基本」と、優先度の高い内容から扱っていきます。そして最後に、「公衆衛生」が多く含まれる15～18に触れていきます。

### 臨床現場に沿った学習

近年の必修問題では、座学だけでは学習しづらい“診察”や“手技”など、臨床現場で用いられる知識が多く出題されます。そのため、臨床実習での経験が非常に重要です。また、研修医になった際に必要とされる現場知識も問われるようになってきました。これらのことから、ただやみくもに過去問を演習するだけでは対策不足となります。本講座では、講師が問題の解法に加え、トピックスやエピソードを交えて解説しています。

### 必修問題構成 ※第112回国試データ



### 講義要項 (20単位)

医師のプロフェッショナルリズム / 社会と医療 / 診療情報と諸証明書 / 医療の質と安全の確保 / 人体の構造と機能 / 医療面接 / 主要症候 / 一般的な身体診察 / 検査の基本 / 臨床判断の基本 / 救急初期診療 / 主要疾患・症候群 / 治療の基本 / 基本的手技 / 死、緩和ケア、終末期ケア / チーム医療 / 生活習慣とリスク / 一般教養的事項 / 参考問題

## 特別講座：画像診断

### 画像読解力は臨床問題を解くカギ

例年120枚前後の出題がある画像問題。特に臨床問題を解くためには、画像読解力が必須といえます。本講座では500枚以上の画像に触れることで、画像読解に対する抵抗感を解消します。すべての画像をシエマ付きで解説しているため、各疾患を視覚的に理解することができます。

### 講義要項 (13単位)

画像診断を理解するために / 消化管・腹壁・腹膜疾患 / 肝・胆・膵・脾疾患 / 心臓・脈管疾患 / 内分泌代謝・栄養疾患 / 腎・泌尿器疾患 / 血液・造血器疾患 / 呼吸器・胸壁・縦隔疾患 / 神経・精神・運動器疾患 / 救急 / 耳鼻咽喉科 / 小児科 / 整形外科 / 産婦人科

## 特別講座：治療薬

### 治療薬の機序・副作用をまとめる

受験生が対策しにくい薬剤や薬理について、国試での頻出薬剤を中心に、今後出題が予想される薬剤までを取り扱います。直年5年分の問題をすべて掲載し、科目ごとに疾患とあわせ整理していきます。抗菌薬・抗不整脈薬・高血圧治療薬はもちろんのこと、麻酔薬までを解説します。

### 講義要項 (6単位)

感染症 / 血液・腫瘍 / 循環器 / 神経 / 腎・アレルギー・呼吸器 / 内分泌代謝 / 消化器 / 臨床薬理学

## 特別講座：救急

### 救急医の考え方を理解し、「第一にすべきこと」を学ぶ

最近の国試の特徴として、臨床現場に則した問題の増加があげられます。特に、救急分野の出題数は増加しています。本講座では、「まず、第一にすべき対応」から「その次にする対応」などの救急医の考え方を、実際に患者さんを前にしているような、臨床現場がイメージでき学ぶことができる講義となっています。診療のイメージをもつことで、診断・治療などの関連知識が頭に浮かび、問題を解けるようになります。

### 講義要項 (6単位)

救急医学導入 / 救急医学には外科が付きもの / 救命救急とは血圧を診る科だ! / 臨床現場でよくみるテーマ一覧

## 特別講座：中毒・職業病

### 短時間で学ぶ

「中毒・職業病」は毎年必ず出題されるにも関わらず、学習を後回しにしがちな分野ですが、本講座で学んでおけば確実に得点できる分野です。金属中毒、有機溶剤中毒、農薬中毒、ガス中毒などの救急対応が必要な中毒のほか、高温障害や高気圧障害なども講義し、少ない時間で中毒・職業病の学習ポイントを的確に押さえることができます。

### 講義要項 (3単位)

金属中毒 / 有機溶剤中毒 / 農薬中毒 / その他の中毒 / 自然毒 / ガス体中毒 / 物理的原因による疾患